



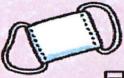
ほけんだより



暦の上では春がやってきますが、まだまだ冷え込みが厳しい季節です。低温・乾燥の時期に流行する感染症(インフルエンザ・感染性胃腸炎等)予防のために引き続き手洗い・うがいにつとめながら、生活リズム・食生活を見直していきましょう。症状のある方は園内の感染拡大予防のために、登園のめやすをお守りください。

空気の乾燥からくるお肌のトラブルが悪化しているお子さんが増えています。お風呂あがり後すぐに保湿剤を塗るのが効果的と言われています。こまめな保湿でいい状態を保っていきましょう。

花粉症について



●こどもの花粉症の特徴は?

- ・目の症状を発症するケースが多い。
; 頻繁に目をこするため充血する
; 目のまわりのむくみなどもよく見られる
- ・くしゃみよりも鼻詰まりが多い。
; これは鼻が小さいからつまりやすく、つまると花粉が入ってこないことからくしゃみも出ないことが原因。
- ・鼻水は少し粘っこい。
- ・鼻で呼吸ができないため口をポカンと開けていることが多い。




花粉症ナビ : <https://www.kyowakirin.co.jp/kahun/kids/difference.html> より

●こどもの花粉症は何かを受診するの?

花粉症かなと思ったら小児科か耳鼻科、または眼科の受診をおすすめします。どの科を受診するかは、どんな症状が強く出ているかによって選ぶのがよいでしょう。

迷ったらまずはかかりつけ医に相談しましょう。



◎すでに花粉症と診断されている場合は早めにかかりつけ医にかかり、薬についてご相談しましょう。

尿検査について

●対象

: 3歳児～5歳児クラス

●提出期間

: 2/8 (水) ~ 10 (金)

起床後すぐの採尿をお願いします。

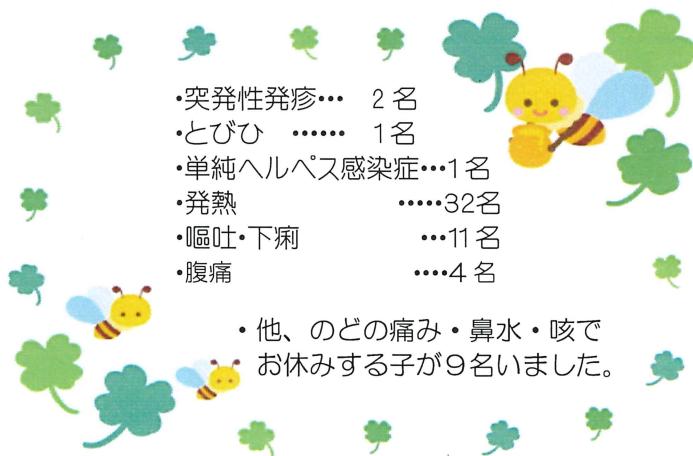
・提出期間が近くなったら、容器をお渡しします。

・登園時に玄関先においている提出BOXに入れてください。

・朝の登園時間以外の提出はお受けできません。

後日、新しい容器での採りなおしとなりますのでご注意ください。

●●1月の感染症（健康状況）●●



乳幼児の鼻副鼻腔炎について



鼻副鼻腔炎は多くは風邪をきっかけにして起こります。

主にウィルス感染に続いて起こる、細菌による副鼻腔の二次感染です。

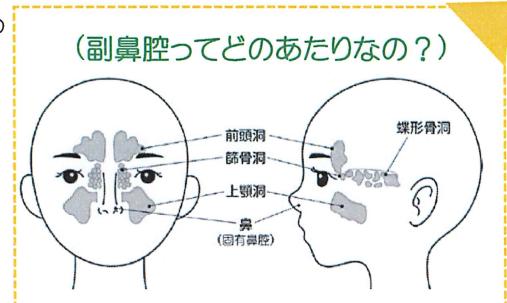
風邪をひきやすい小さいうちは副鼻腔炎を繰り返し、症状が続くこともあります。

【症状】

黄色や緑色のドロッとした鼻水が続いて、鼻づまりや痰がからんだような咳をしたり、寝ている時に鼻詰まりのためにいびきをかく場合もあります。このような時は早めに耳鼻科を受診し、慢性化しやすいように注意しましょう。

【対応】

- 鼻をかむ時は片方ずつゆっくりとかみましょう。
- 鼻をかむのが難しい年齢のお子さんの場合、症状を繰り返し見られているお子さんは耳鼻科を受診して治療を受けましょう。



一部引用 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 こどものみみ・はな・のどの病気 QA
(http://www.jibika.or.jp/citizens/kids_entqa/hana_mensei.html)



ちゃんと聞こえているかな？

病気で起こる難聴があります

聞く力は、言葉やコミュニケーション力を育むために欠かせないもの。難聴がある場合は、一日も早く専門的な治療や指導を受ける必要があります。難聴には先天性と後天性がありますが、2～6歳の難聴の原因の大部分を占めるのが滲出性中耳炎です。程度は軽くても数年にわたって続くと、言葉の習得に影響が出ることもあります。聞き返しが多くなったり、テレビに近づいて聞く様子などが見られたら、早めに耳鼻科を受診しましょう。

[難聴の原因になる感染症など]

中耳炎 おたふくかぜ 先天性風しん症候群など



妊娠中の風しん感染で、
胎児が難聴になることも



おたふくかぜの
後遺症で難聴になることもあるよ